

すべての団体にお聞きします。

Q1 本補助金をどのように知りましたか。(複数選択可)

	回答数
①広報紙	27
②チラシ(応募の手引き)	17
③ホームページ	3
④他団体・知人	19
⑤ケーブルテレビ	0
⑥その他	3

その他：窓口・ポスター

Q2 団体の形態は次のうちどれに該当しますか。(一つに○をつけてください)

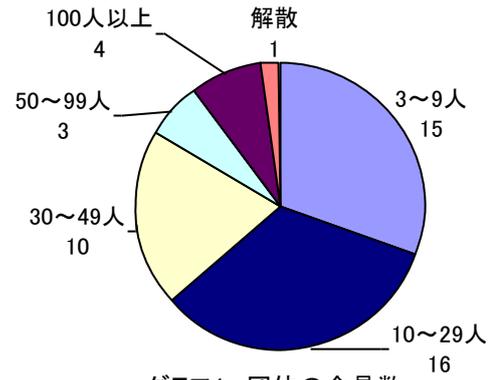
	回答数
①NPO法人	8
②市民活動団体	41

Q3 団体の活動分野は、次のうちどれに該当しますか。(主な活動一つに○をつけてください)

	回答数
①保健・医療・福祉の増進	6
②社会教育の推進	0
③まちづくりの推進	8
④学術・文化・芸術・スポーツの振興	9
⑤情報化社会の発展	0
⑥科学技術の振興	1
⑦経済活動の活性化	1
⑧職業能力開発・雇用拡充	0
⑨消費者の保護	0
⑩環境の保全	12
⑪災害救援	1
⑫地域安全	2
⑬人権の擁護・平和の推進	1
⑭国際協力	1
⑮男女共同参画	0
⑯子どもの健全育成	7
⑰NPOの運営・活動に関する連絡・助言・援助	0

Q4 団体の会員数や職員数はどのくらいですか。(一つに○をつけてください)

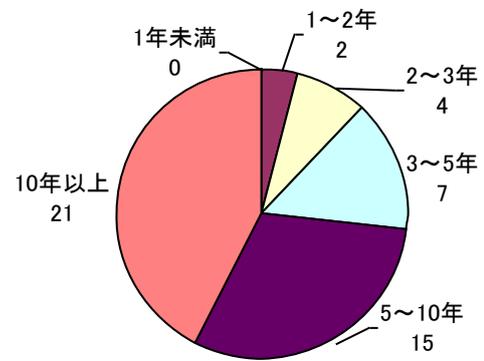
	回答数
① 3～9人	15
② 10～29人	16
③ 30～49人	10
④ 50～99人	3
⑤ 100人以上	4
解散	1



グラフ1 団体の会員数

Q5 団体を構成してどのくらいの期間、活動をされていますか。(一つに○をつけてください)

	回答数
① 1年未満	0
② 1～2年	2
③ 2～3年	4
④ 3～5年	7
⑤ 5～10年	15
⑥ 10年以上	21

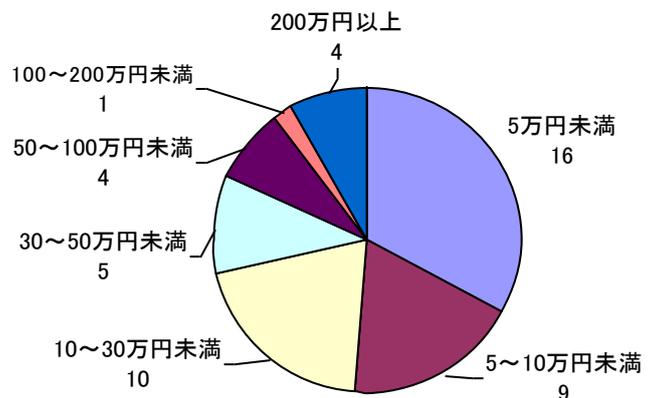


グラフ2 団体の活動期間

構成期間5年以上の団体が7割以上と活動期間が長い団体が多い。

Q6 団体の1年間の予算はどのくらいですか。(一つに○をつけてください)

	回答数 ( ) NPO数
① 5万円未満	16 (1)
② 5～10万円未満	9 (2)
③ 10～30万円未満	10
④ 30～50万円未満	5
⑤ 50～100万円未満	4 (1)
⑥ 100～200万円未満	1
⑦ 200万円以上	4 (4)



グラフ3 団体の年間予算

年間予算10万円未満が5割以上、30万円未満が7割以上を占めている。200万円以上の4団体はすべてNPO法人である。

Q7 スタートアップコース（1事業1回、補助率100%、補助上限10万円）の補助回数、補助率、補助上限金額についてどう思いますか。

		回答数		内容
補助回数	①適当	37	適当と 思われる 回数	2回…3
	②少ない	9		3回…5
	未回答	3		5回…1
補助率	①高い	9	適当と 思われる 補助率	50%…2 70%…1
	②適当	34		75%…1 80%…2
	未回答	6		90%…1
上限金額	①高い	0	適当と 思われる 上限金額	15万円…1 20万円…5
	②適当	34		30万円…3 60万円…1
	③低い	10		100万円…1
	未回答	5		

すべての項目で現在の補助内容が適当と回答した団体が一番多かった。補助回数・上限金額の増が必要という団体からは、「活動によって判断してほしい」「10万円ではできることが限られる」という意見が複数寄せられた。補助率が高いという団体からは、「会も一部自己負担すべき」という意見であった。

Q7-1 適当でない理由及び適当と思われる各数値の考え方について教えてください。（自由記述）

No.	内容
1	スタート時の資金支援として補助金が必要。【上限30万円】
2	活動は継続するので補助回数は多いほうが良い。補助額は活動によって異なるのでなんとも言えない。
3	活動の立ち上げには10万円では不足。【上限20万円】
4	10万円ではできることは限られるから。【上限20万円】
5	上限や回数は不要。活動内容により条件が違う。
6	何かをしようとする時、すべて他者に依存するというよりは、自己負担を伴うものという考え方。【補助率70%】
7	イベント事業を除き、日常の市民活動の中で日々活動を行うためには、PDCAサイクルを年度ごとにまわし、実行可能な活動計画、事業の安定を図るためには、3年（3回のPDCAサイクル）が必要である。また、日常的に活動をしていれば交通費などで1日2千円は必要になってくる。無償奉仕活動であれば別だが、実働月25日として、月5万円は参加者が負担していることを理解いただきたい。【補助回数3回、上限60万円】
8	団体の目的、規模の大小にて、補助回数の幅を拡大した方がベターだと思う。充実した団体のスタートの基礎には、必要な諸経費がかかる。【補助回数3回】
9	活動により、1年以上、または継続が必要だが、活動経費の確保には、時間がかかることが予想されるため、1事業1回固定ではなく、活動内容評価により、決める方が良い。【補助回数3回】
10	自己財源がいくらかでもあった方がよいのではないかと。また、事業内容にもよるが10万円では厳しい事業もあるのでは。【補助率80%、上限20万】

Q8 ステップアップコース（1事業最大3回、補助率50%、補助上限30万円）の補助回数、補助率、補助上限金額についてどう思いますか。

		回答数		内容
補助回数	①多い	3	適当と 思われる 回数	2回…3
	②適当	34		5回…3
	③少ない	4		10回…1
	未回答	8		
補助率	①高い	2	適当と 思われる 補助率	30%…1 70%…4
	②適当	27		75%…2 80%…2
	③低い	11		90%…1 100%…2
	未回答	9		
上限金額	①高い	2	適当と 思われる 上限金額	20万円…2
	②適当	30		50万円…4
	③低い	7		100万円…2
	未回答	10		500万円…1

スタートアップコース同様、現在の補助内容が適当と回答した団体が一番多かった。補助率の増を希望した団体からは「団体で50%の自己資金を用意するのは難しい」、補助回数・補助率・上限金額の減が必要と回答した団体からは「多くの団体に補助できるように」という意見が複数寄せられた。また、補助率が低いと回答した11団体の活動分野は、「環境の保全」と「子どもの健全育成」が3、「保健・医療・福祉」が2、「まちづくりの推進」と「学術・文化・芸術・スポーツ」と「科学技術の振興」が1であった。

Q8-1 適当でない理由及び適当と思われる各数値の考え方について教えてください。（自由記述）

No.	内容
1	一律が良くない。
2	自己資金がほとんどない団体が、スタートアップを受けて活動を始めた場合2年目以降事業を拡大しようとしても20~30万円を自己資金として準備するのは大変だと思う。
3	人件費を除いても、組織として日々の業務を行うことを考えれば活動費は必要である。まして、2分の1の補助であれば、それなりの投資をしながら行う事業であり、公共性の高い事業であれば新しい公共として、公金投入も必要な事であり、補助回数を設定する必要性がないと考える。補助事業体制を拡大、拡充し、補助の種類別、事業の種類別の体制整備をお願いしたい。【上限100万円】
4	ステップアップコースの2~3回目の補助時には活動の安定化上、補助率を50%から30%にし、複数団体に補助できるようにすべきと思います。
5	神奈川県基金21に比べて、補助が低いと思うから。【補助回数5回、補助率75%、上限50万円】
6	多くの市民団体が補助を受けられるようにするため、回数を減らす。補助金上限もしたがって減らす。【補助回数2回、上限20万円】

7	補助回数、補助率の上限は定めず審査をきちんとしたと思っただが、上限金額 30 万円くらいで良いと思う。違う事業なら同じ団体でも補助を受けられるのなら、上限金額は 100 万円が理想。ただ、有用な事業のみに補助。【補助率 90%、上限 100 万円】
8	自己資金がないので小田原市の補助金をうれしく思ったが、それと同額の自己資金を用意することは大きな負担だった。【補助率 80%】
9	2 回目の事業で 50%だけの補助で実現するのは大変でした。【補助率 70%】
10	広く多くの団体へわたるように考えて欲しい。【補助回数 2 回、上限 20 万円】
11	ステップアップコースは、事業の充実化を図る事を目的としている。50%の補助率で 30 万円では事業の展開が中途半端になってしまう。お金がない市民活動団体に補助率 50%はきつい。これは 100%にすべき。【補助回数 5 回、補助率 100%、上限 50 万円】
12	補助率は 70%から段階的に下げて行くことはできないか。また、補助額は、事業にもよるが 50 万円程度はあってよい。【補助率 70%、上限 50 万円】

Q9 本補助金（スタートアップ・ステップアップの延べ回数）の交付を何回受けましたか。（一つに○をつけてください）

	回答数
① 1 回	36
② 2 回	7
③ 3 回	3
④ 4 回	3

複数回交付を受けている団体が 13 団体と少ない。

スタートアップコースに申請された団体にお聞きします

Q10 スタートアップコース終了後、ステップアップコースの申請をしましたか。（一つに○をつけてください）

	回答数
①申請した → Q13 へ	14
②申請しなかった → Q11 へ	25

Q11 申請しなかった理由は何ですか。（複数選択可）

	回答数
①自己資金がない	8
②資金の目処がたった	6
③手続きが面倒	7
④活動を縮小又は廃止	2
⑤その他	5

その他：応援補助金で購入した物品で継続実施…2

市のモデル事業へ移行・活動体制の準備段階…各 1

「自己資金がない」と回答した 8 団体のうち 6 団体は Q6 で年間予算が 5 万円未満と回答している。

Q12 今後、再度補助申請（同事業継続や別事業等）したいと思いませんか。（一つに○をつけてください）

	回答数
①申請したい	5
②申請しない	8
③わからない	10
未回答	2

「申請しない」と回答した8団体のQ11の回答は、「手続きが面倒」が3、「資金目処がたった」が2、「その他（会費、購入物品等で継続）」が2、「活動を縮小又は廃止」が1とその理由は様々であった。

ステップアップコースに申請された団体にお聞きします

Q13 申請した理由は何ですか。（複数選択可）

	回答数
①自己資金が足りない	14
②活動内容の維持または拡大	13
③その他	2
未回答	2

その他：小田原市に認めてもらい事業を行うため・広報効果及び客観的評価を得るため…各1

「自己資金が足りない」と回答した14団体のうち、6団体がQ8で補助率が低いと回答している。

Q14 今後、再度補助申請（同事業継続や別事業等）したいと思いませんか。（一つに○をつけてください）

	回答数
①申請したい	11
②申請しない → Q14-1へ	6
③わからない	5
未回答	2

「申請したい」と回答した11団体のうち、Q8の各設問で「適当」以外を回答している団体は、「補助回数少ない」が4、「補助率低い」が5、「上限金額低い」が3であった。

Q14-1 「申請しない」理由は何ですか。（複数選択可）

	回答数
①資金の目処がたった	1
②手続きが面倒	1
③活動を縮小又は廃止	1
④その他	3

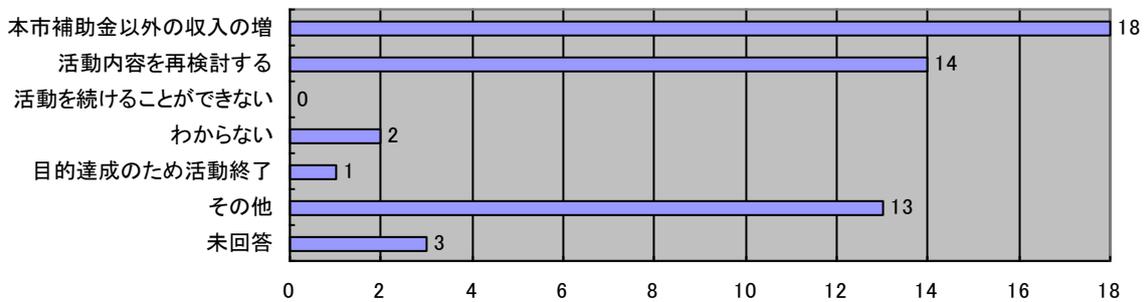
その他：事業として認められたから・評価が適切か疑問があるため・補助回数を終了した…各1

すべての団体にお聞きします。

Q15 本補助金の交付終了以降、団体の事業をどのように続けますか（続けていますか）。（複数選択可）

	回答数
①本市補助金以外の収入の増	18
②活動内容を再検討する	14
③活動を続けることができない	0
④わからない	2
⑤目的達成のため活動終了	1
⑥その他	13
未回答	3

その他：補助金購入物品で継続活動…3 会の予算内で活動…3  
 資金のかからない活動に戻す…3 補助が無くても継続…2



グラフ4 活動継続方法

ほとんどの団体が何らかの形で活動を継続できるようにしている。「本市補助金以外の収入の増」がもっとも多いが、「活動内容の再検討」「補助金購入物品で活動継続」など、補助金が無くとも活動を継続しようとしている。

Q15-1 「本市補助金以外の収入を増やした」内容を教えてください。（複数選択可）

(Q15 で①を回答した団体)

	回答数
①他の補助金	8
②会費の増加	2
③参加者、来場者収入	5
④寄付・協賛金	4
⑤その他	6

その他：委託事業収入…2 代表者の自己負担…2 作品販売…1

Q16 他の制度の補助金（市・他機関問わず）を受けたことがありますか。（一つに○をつけてください）

	回答数
①はい	16
②いいえ	29
未回答	4

3割以上の団体が本市以外の補助金を受けて活動したことがあった。

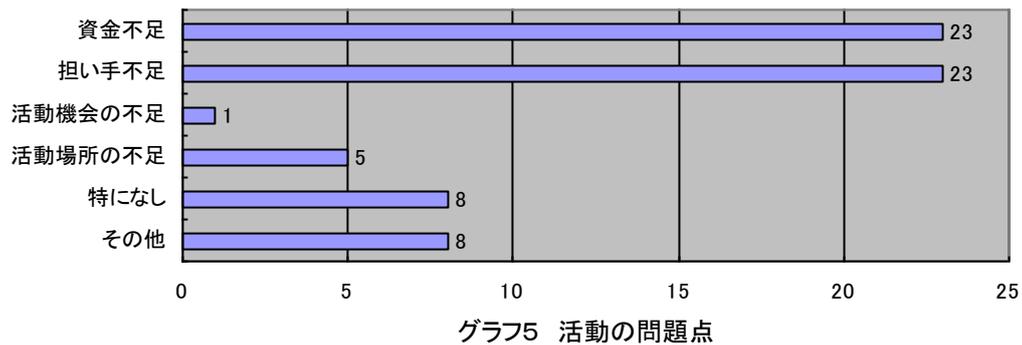
No.	補助金名	使用した感想
1	神奈川ネット	活動資金の有効利用で事業が継続できた。
2	酒匂川保全協議会	助かりました。
3	自治会より補助	使用項目がしばられないので使用しやすい。
4	かながわボランティア活動推進基金 21	
5	神奈川県安心安全まちづくり団体事業補助金	事業開始時の機材購入ができ助かりました。
6	資源エネルギー庁地域連動省エネ事業 神奈川県提案型協働事業	事業に参加した各種団体の成果発表会・懇親会があり有益な各種情報が得られた。
7	指定文化財保存管理奨励補助金	
8	富士箱根伊豆国際観光テーマ地区神奈川県協議会	大変助かっている。
9	伝統文化こども教室事業	採択要件が厳しく補助額が低い、報告書が面倒。
10	年末助け合い義援金	書類提出に労力がかかった。
11	神奈川県芸術振興補助金	
12	水土里ネット	金額も多く、期間も5年、手続きもわりと楽。
13	日本赤十字社小田原支部	会の活動を担う資金として重要な位置を占めています。
14	ゆめコープ補助金・生活クラブ生協たすけあい未来ファンド	
15	ニッセイ財団	備品がそろい助かった。また補助申請したい。
16	神奈川新聞社・厚生文化事業団	予算の2分の1なので自己資本が必要で困った。

Q17 団体として活動を続けていく上での問題点を教えてください。（複数選択可）

	回答数
①資金不足	23
②担い手不足	23
③活動機会の不足	1
④活動場所の不足	5
⑤特になし	8
⑥その他	8

その他：常設事務所がない…2 活動趣旨の各方面への浸透と理解…2

必要物品の入手方法・荷物置場がない・ネットワーク形成・市の協力…各1



「資金不足」と回答した23団体のうち、11団体が10年以上、4団体が5～10年であり、活動年数が比較的長い団体でも抱える問題であった。また、年間予算は16団体が30万未満（補助上限30万より少ない）と回答している。団体の活動分野は、「学術・文化・芸術・スポーツ」と「子どもの健全育成」が5、「保健・医療・福祉」が4、「環境の保全」と「まちづくりの推進」が3、「科学技術の振興」と「災害支援」と「地域安全」が1であった。

Q18 補助金の交付を受けていかがでしたか。（一つに○をつけてください）

	回答数
①良かった	45
②悪かった	1
③どちらとも言えない	1
未回答	2

Q19 補助金を受けて良かった点、悪かった点について教えてください。（自由記述）

No.	良かった点
1	活動効果が上がった。活動が順調に行えた。
2	活動のスタート資金として役に立った。
3	活動内容の充実と拡大化。
4	補助金で目的達成（道具の更新）ができた。
5	必要な用具が購入できた。運転資金に充実が図れた。
6	活動に不足していた物品を購入でき、活動が順調に行えた。
7	役員からの寄付にたよっていたが、1年間それをせずに活動できた。
8	会の活動を評価している人がたくさんいることをアピールできた。
9	作品額の購入により、作品が一層立派に展示できる。準備が楽になった。
10	会員の意識向上に役立った。
11	資金がないので呼べなかった講師を呼べた。また、体操教室とのコラボレーションができ、今後の活動に大変役立った。

12	財政面での支援が何よりも活動の支えとなった。第2次審査や成果発表会等により、市民活動のあり方を学んだ。
13	有識者による審査によって、事業認定されたため、展開している事業への信用が高まった。
14	経費負担が軽減された。
15	想像以上の活動ができた。会費はもとより、地域の人々の団体活動への認識が高まった。地域の文化遺跡への協力がより得られるようになった。
16	補助金により色々な資材を購入でき活動に幅ができた。
17	道具の購入ができた。
18	無形文化財の後継者育成に役立てることができた。
19	通常予算では出来ないことができた。
20	自己資金では実施できなかった事業ができた。
21	収支は、祭典の際の寄付金のみであり、近年寄付金が集まらないので非常に助かった。
22	他の精神保健福祉関係団体に認知された。
23	補助金を得てポスターを作成し、飲食店に掲示してもらったので、それなりの問題意識をもってもらえることにつながった。
24	現時点では安心して計画が進められることはとても助かっています。
25	若い音楽を学ぶ学生及び、卒業生を広く支援できた。
26	具体的目標を定め、期間内に達成するというので、どうすれば効率良く、効果的に事業が行えるか、実行しながら学ぶことができた。
27	デジタイズ再生機 PTR2 を購入することができました。
28	独自では難しかった、他地域先進事例の取り組みを学ぶ研修を講師依頼し、行政や地域関係者にも声をかけ共有の場を持つことができた。また、他の活動団体とも、補助金に関する集まり等の中で、知り合う機会を得た。
29	活動に必要な機器の購入ができた。
30	パンフレットとリーフレットをたくさん作らせていただき、公共施設や小中学校・保育園などたくさんの方に置かせてもらった。また、外部からの専門家をお呼びしての講演会もできたので、私たちの学習会に参加して下さる方も増え、私どもが望む、親が自分にされて嫌だったことの心の整理をし、やさしい子育てをしようということが広く伝えられるようになった。
31	やりたい事業ができて良かったです。補助金をいただかなければ実現できませんでした。
32	複数の先生を迎え、自治会と連携できた。
33	6年前に発足しスタッフを募集したところ、一気に200名以上の手が上がり、腕章製作費に困っていたので補助をいただき助かった。
34	行動を起こそうとすると、どうしても資金不足となる。しかし、特定の個人の負担で実施すると不健全さが見えてきたりするので補助金があるとありがたい。
35	資金不足の解消。
36	一番必要だった機材が買えたこと。
37	活動に特色あるセールスポイントがつけられた。
38	自主財源だけではできない事業内容を実現できたこと。

No.	悪かった点
1	規制が多く、使用が4月1日以前だと不便。申請金額の使用方法が変更になる場合不便。
2	役員の協力が得にくくなった。
3	未だに補助金を有効活用することへの認識が弱い団体がある。単純に補助金をあてにした団体では前進が得られない。
4	グループのメンバーが高齢により減少し、十分な活動が出来なくなって購入品が十分活用できていない。
5	その後の維持管理の予算処理がなかなかできていない。
6	手続きが煩雑に感じた。
7	報告書、手続きなど、もう少し簡素化できないでしょうか。また、受けた団体としての交流会などは最小限にしてほしい。
8	使い道の規制を設けない方が良い。しかし、問題が出てくる事業もあると思う。
9	手続きが煩雑な上に、審査会など4回も市役所へ、しかも複数人で。経費・時間がかかりすぎる。しかも減額された。
10	強いて言えば申請手続きと報告事務が複雑でした。
11	事務負担が大きく、申請しにくい。
12	面倒な事務申請。
13	事業経費に対し、自主財源を拡充できなかった。（補助金の問題ではなく団体自身の問題）

良かった点として、補助金のおかげで、「物品が購入できた」「会の予算だけではできなかったことができた」など、活動の幅が広がったという意見が多かった、また、「会員や地域に良い意識を与えられた」という意見も寄せられた。  
悪かった点として、「手続きが面倒」という意見が多数寄せられた。

Q20 その他、本制度に対する意見、感想など。（自由記述）

No.	意見・感想
1	資金はいくらあっても足りない。活動のスタートを支援できれば、その後は団体の自己資金でまかなうのが基本だと思います。
2	NPO 団体と一般の市民活動団体の枠を別にしてもらいたい。
3	呼びかけの会合が多すぎる。プレゼンテーション時の選考委員のレベルアップをお願いしたい。また、他市ではもっと委員の数が少ない。その手当でも補助金に充てたらどうか。私だったらボランティアで行います。
4	とても良い制度だと思います。
5	良い制度だと思っています。
6	公正でない補助事業があると感じる。
7	講演会を行いたいが、交付された年度に結果報告を出すということでは、自己資金がない当会では計画できない。
8	市民活動応援補助金なので、私たちのような資金も知識もないボランティアグループのための補助金だと思って応募したのですが、意外と資金のある団体が多くて驚きました。特にステップアップコースは自己資金が必要なので私たちの団体には縁がありません。

9	この補助金に関する審査（プレゼン）や発表会を通して、様々なグループが有意義な活動をしていることをあらためて知りました。グループ（団体）間の交流が、もっと進められるとよいと思います。
10	この補助制度は毎年交付が約束されたものでなく、継続して計画的に事業を進めていけるかどうか疑問を持ちながら行った経験がある。現行の1年ごとの制度も短期事業では必要だと思いますが、少なくとも3～4年にわたり継続した補助金が交付される制度があれば、計画的に事業を進めることが可能です。ご検討ください。
11	社会に必要とされる事業は多くある。役所、国で手の回らないところに補助金は必要。必要の有無には高い見識が必要。審査員の努力と広い視野に立った適切な判断を望む。
12	各団体活動の根本はリーダー作りである。また、補助金を活用することにより、次世代リーダー（後継者）づくりをすべきと取り組んでいる。
13	我々ボランティア団体で提案してできたことが、その後も維持していく価値があると判断されたら、市として継続して補助していく方がよいと思う。
14	現在使用している和太鼓（特に大太鼓）が老朽化しているが、小太鼓20万円、大太鼓80万円ととても高額である。こうした物品への補助についての要件の拡大を検討していただきたい。
15	「市民活動」の範囲が一般的にはよくわからない。市民自主的な啓発のため、生涯教育のためのボランティア活動も対象となる制度なのか。また、事務手続き（申請書など）をもう少し簡素化してもらいたい。書類審査後のプレゼンテーションの形もスタートアップとステップアップが同じようなプレゼン要求も疑問に思った。
16	無駄はいけないが、手間がかかりすぎる。メンバーも2度と受けたくないと言っている。審査会などやめて、その経費で職員が現場に足を運ぶべきだと思う。実際に活動現場を見るのが一番。（新規事業者については仕方ないが）
17	私たちの会の活動にご理解ご援助いただきありがとうございます。その後、ますますデジタル機器は多様化し、視覚障がい者の方への情報伝達の方法も進化してまいりました。一方で、PCなどに対応しづらい高齢の方も多く、いまだカセットテープに頼っていらっしゃる方々との二極化が進んでいます。その隙間をつなぐ役割が私たちボランティアにできると感じておりますが、そのいずれにも対応するには従来から使っているカセットデッキのメンテナンスが欠かせず、また、デジタル録音に備えて機器の購入など、大きな予算が必要です。スタートアップほどの額の補助が複数回いただけましたら大変助かります。
18	補助金申請に関し、一連の流れを土日中心でやれたら良いと思います。平日ですと休みを取得しなければいけないので、これから行動を起こし、中心で活躍していく人たちは現役が多いと思います。
19	プレゼンテーション及び結果報告が、聞き手の人からすると不満が残るように感じる。
20	提出書類が多すぎます。もっと簡素化してほしい。
21	1年間を終えましたが、今年はターゲットをしぼり再挑戦します。
22	審査の基準、審査員の共通認識、公益性などに関する評価の共通性・客観性に若干の疑問がある。
23	あくまで税金を使わせていただいているので意見はありません。感謝の心を忘れず活動することです。